

# 次年度から（現中学2年生） から公立高校入試が変わる 1

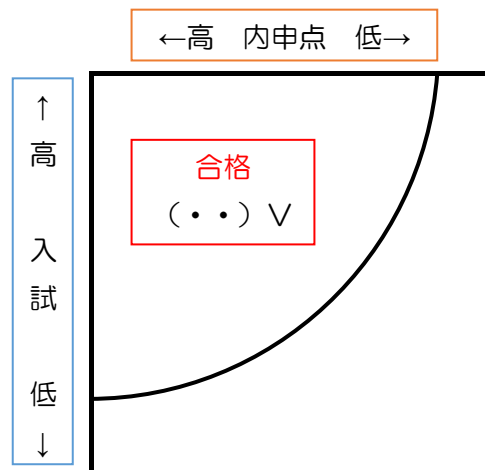
## 現在の前期・後期と異なる共通選抜と特色選抜について

現在の中学3年生まで続いた公立高校の前期選抜・後期選抜は次年度の中学2年生から廃止され、代わりに**共通選抜**と**特色選抜**という入試になります。

### ①共通選抜について

ポイント

- 1：5科目の学力検査をする（500点満点）
- 2：調査書・内申（通信簿の点数）は中学1年生から中学3年生までの点数（195点満点）
- 3：1と2の相関図を作り合格者を決定。（下の図参照）※入試と内申の比率は高校によります。



要約：完全に**点数（入試の点数と内申点）のみ**で決まるので、生徒会長や部活の成績は合否に無関係。  
中1から中3までの内申点を願書とともに提出するので、**願書を出した時点で相関図の横軸の順位が決まります**。→これまでは、点数以外の評価もしていましたが、**完全に点数のみ**になるので、中1や中2での内申不足で志望する高校を受けたいと思っても合格が難しくなる生徒が出る可能性が高い。

対策①**中学1年生から定期試験や学校の授業態度など内申に関わることはしっかりやっておく必要**があります。**実技科目も同様です**。（入試にない実技科目の内申点は2倍の評価）

対策②入試の点数をしっかりとるために中学1年生から中学3年生の5科目をバランスよく勉強し、**弱点のないように準備しておく**。（つまり受験勉強のこと）

# 次年度から（現中学2年生） から公立高校入試が変わる2

## ②特色選抜について

### ポイント

- 1：学力検査（入試）の5科目の点数を各高校が教科ごとに換算率（つまり傾斜配点）を使える。
- 2：調査書点も同様に各高校によって換算率（0.25倍～2倍まで1の傾斜配点のこと）を使える。
- 3：面接や作文、実技など実施する高校は各高校でその配点を決めることができる。

解りづらいと思うので詳しく要約をいたします。

要約①各高校が入試の点数や調査書点を上げたり、下げたりできます。

例：入試の数学を100点から200点にする（換算率2倍）入試合計600点（他100点）で合否を決める。→数学を重視している高校などがこのようになるかと思います。理数科など

要約②面接や実技を伴う高校などは入試が2日間になることがある。

例：初日に学力検査。2日目に実技。という具合です。

対策：学力検査や調査書点に関しては共通選抜の対策と同じですが、各高校が発表する換算率（入試）のつく科目を強化する必要があります。ただしバランスよく勉強することは大事です。（他教科も点数がでますので）→現状では各高校の発表がないので、今は5科目バランスよく勉強するだけです。

## ここからが重要です

### 1 受験生は共通選抜・特色選抜の入学試験を選ばません！！

→入試（共通も特色も学力検査は同じ）後、共通選抜での合格、特色選抜での合格は各高校が決めます。そして自分がどちらで合格したかわかりません（先行する青森の例なら）。現状のように前期選抜を受ける受けないなどを受験生が決めるものではないということです。

→各高校の発表がない現状で、かつ受験生は選抜の方法を選ばませんから、特色選抜に絞った模試や対策は早計でありほぼ無意味です（5科目バランスよく勉強することは意味があります。学習塾は学習相談などもしています、情報を正しく伝えられないことは学習塾としては恐ろしいことです。今現在の宮城県教育指導班の情報を知らないのか？整理がついていないのか？情報能力不足？です。）

中2生以下のお子様を持つ保護者様は今後の入試情報を正しく知ることをお勧めいたします。

### 2 公立入試が1回だけのチャンスになる！！

→前期入試がなくなりますので、チャンスは1回だけ（2次募集を除くと）つまり、自分の行きたい高校と行ける高校の考え・悩み（どこを受験するか）がこれまで以上に大きくなります。結果、確実に合格できる高校を選ぶ傾向が高くなり、倍率などに影響（極端な倍率）があるかもしれません。